あかまつ

明るいあいさつ
笑顔あふれる
加須西中！

加須市立加須西中学校
学校だより１０月号
令和８年１０月１日
生徒数　２８０名

＜学校教育目標＞　○本気で学ぶ生徒　　○友達を尊重し仲良くする生徒　　○自ら心身を鍛える生徒
＜目指す学校像＞　「夢や希望を育み信頼される学校」

学校歯科保健功労内閣総理大臣賞に決定
チーム西中、目指すは「上農」

校長　　青木　久永

9月上旬、**加須西中学校が「第3回学校歯科保健功労内閣総理大臣賞」に決定**との朗報が日本学校歯科医会から届きました。過去2回の被表彰校（園）は、幼稚園1園、小学校2校、特別支援学校1校の1園3校。中学校の受賞は全国で初です。本校の長年の歯科保健の取組が国から認められました。これまで御指導及び御鞭撻を賜りました関係各位に深く感謝を申し上げます。表彰式は10月15日、東京の文京シビックホールで行われます。

季節は秋になりました。読書、スポーツ、芸術、食欲の秋。1年のうちで、最も勉強や運動に適した季節です。

秋にはリンゴが店に並びます。リンゴを見ると、ある本を思い出します。題名は『奇跡のリンゴ』。著者の木村秋則さんは、1949（昭和24）年、青森県弘前市生まれ。世界で初めて無農薬・無肥料のリンゴ栽培に成功した人です。

22 歳でリンゴ農家の養子になります。散布する農薬で妻が体調を崩したことをきっかけに、無農薬のリンゴ栽培に挑戦しますが、無収穫・無収入が続きます。約10年後、ついに完全無農薬・無肥料のリンゴ栽培に成功します。

リンゴは「奇跡のリンゴ」と称賛され、著書『奇跡のリンゴ』はベストセラーになりました。本の概要を紹介します。

木村さんの農法には、周囲の人々からの強い反対がありました。無農薬を始めて6年目には、生活が困窮し、町で一番貧しい家と名指しされ、親戚からの冠婚葬祭の連絡も途絶えました。「周りの人には、何も恨みはない。俺が常識外れのことをしてしまったからこうなった。家族・親戚に申し訳ない。」

ある夜、死に場所を求めてロープを手に山中を歩いていた木村さんの目に、月光に浮かび上がるリンゴの木が映ります。人の手が入らなくなって久しいその見捨てられた畑には、肩の高さまで草が生い茂り、かぐわしい土の匂いが鼻をくすぐり、足元はふかふかで、まるでクッションを踏みしめているようでした。農薬を散布してないのに、虫の被害は皆無で、力強く枝を張り、葉を茂らせていたのです。

翌日行ってみると、その木は、リンゴではなく、自然に実から芽を出したドングリの木でした。「これが答えだ！」草は生え放題ながら、健康そのもの。元気一杯なドングリの木。農薬も肥料もなく、人の手が一切入っていない環境でも立派に育っています。虫たちが活動し、生命があふれ、全てが循環していて、何一つ無意味なものはない。

生態系の一部として、ドングリの木も生かされている。人間に管理されたリンゴ畑とは全く異なる光景ですが、これこそが、木村さんが求めてきた答えでした。「自分は枝や葉など目に見えるところばかりに気を取られ、肝心の根っこや土のことをすっかり忘れていた。」

その夜以降、木村さんは雑草を刈るのをやめました。そして迎えた9年目。リンゴ畑の土は、あのドングリの山と同じようなふかふかの柔らかさをたたえていました。ある日、隣人が、「おい、花が咲いているぞ！」と教えてくれました。長い間、病気と虫に悩まされ、沈黙を続けていたリンゴの木が、やっと応えてくれたのです。一面に咲き乱れるリンゴの白い花を見て、木村さん夫妻は、とめどなく涙を流して立ちつくしていました。

さて、どうだったでしょうか。この実話は示唆に富んでいて、学校改善に応用できる内容を多く含んでいます。

例えば、これまでの学校の常識を疑うこと。前例踏襲を打ち破ること。西中生のために、信念と勇気を持って挑戦すること。枝葉末節に惑わされず、たとえ反対されたとしても、最後まで絶対に諦めてはいけないと。

この実話の中で、リンゴの木は生徒、土は学校・家庭・地域と読み替えることができます。それでは、これまで当たり前に使われてきた農薬や肥料は何でしょうか。私たち大人が、子供に対して良かれと思って、あれこれやってしまっている余計な管理、過剰な世話、子供の自立を妨げる支援でしょうか。何を指すかは、人それぞれです。

教育者の東井 義雄（1912～1991）は、著書で、**「下農は雑草をつくり　中農は作物をつくり　上農は土をつくる」**と述べています。下農は、田畑に雑草を生やしてしまいます。中農は、良い作物をつくり、収益を上げることに努力します。上農は、目先の収穫よりも、土壌を豊かにすることに力を注ぎます。土をつくることで、必然的に豊かな作物が実ること（信頼される学校）にもなります。奇跡のリンゴの木村さんが目指したことも、これと同じです。

「上農は土をつくる」。無限の可能性と力を秘めた西中生が、予測が困難な時代を生き抜くためには、根っこの部分を大切に育てなければなりません。困難を乗り越えていけるかどうかは、生徒の根が太くて、強い吸収力があること。見えない学力、つまり、学びに向かう意欲や態度を育むこと。「自分は価値ある存在」だと信じる自己肯定感を育むことなどが、学校における土づくりです。大地にしっかり根を張り、太く幹が生長し、葉が生い茂り、大輪の花を咲かせ、秋には大きな実がなるよう、私たち大人たち（チーム西中）が、結束して上農を目指しましょう。

秋は体育祭、音楽会など、生徒一人一人が輝ける学校行事を用意しています。皆様の御協力をお願いします。

中学生学級（理科の実験）

9月8日（火）の中学生学級において、丸山　綱男先生を指導者として理科の実験を行いました。浮沈子（ふちんし）を題材として、水中にある物体にはたらく水圧についてわかりやすい説明がありました。

参加した生徒や教員はペットボトルを使った浮沈子を制作し、水を入れたペットボトルへの力の加え方で水中の物体の浮き沈みが変化する様子を見て、驚きの声を上げていました。




高校入試等説明会

9月11日（金）に、令和9年度入学の高校入試等説明会を実施しました。公立高校における入試の変更点や高校入試の出願時の手続き、今後のスケジュール等について、生徒・保護者向けに進路指導主事が説明しました。

2年生の保護者の参加も含めて多数の保護者の方々が来校し、生徒と共に熱心に説明を聞いていました。




体育祭練習開始

9月17日（木）から、体育祭に向けての練習が始まりました。初日は先日選抜されたダンスリーダーを中心に、ソーラン節の練習を行いました。これまでの伝統を引き継ぎ、さらに素晴らしいものにするために、ダンスリーダーの指導を受けて全員が頑張っていました。

本番は10月10日（土）です。




10月の行事予定

日	曜	行事予定	備考
1	木	秋季北埼玉地区大会2日目 50分×3時間授業	B日課
2	金	秋季北埼玉地区大会3日目	
3	土		
4	日		
5	月		部活動なし
6	火	北埼玉地区大会予備日	
7	水	体育祭予行　陸上県大会	B日課
8	木	陸上県大会	
9	金	体育祭準備　駅伝準備会	部活動なし
10	土	第72回体育祭	
11	日	体育祭予備日①	
12	月	スポーツの日	
13	火	体育祭予備日②　中学生学級	
14	水	体育祭予備日③　専門委員会	B日課
15	木	北埼玉地区駅伝競走大会	
16	金	学年朝会　駅伝予備日	
17	土		
18	日		
19	月	振替休業日	
20	火	登校指導　中学生学級	
21	水	生徒会長選挙	B日課
22	木	ふれあいデー　5時間授業	
23	金	表章朝会　45分授業	
24	土		
25	日		
26	月		部活動なし
27	火	校内音楽会事前指導	
28	水	校内音楽会　※パストラルかぞ大ホール 夢と豊かな心を育む講演会	
29	木	教育相談期間 45分×4時間（11月10日まで）	
30	金	生徒朝会　50分×3時間授業	B日課
31	土		

生徒の自転車の乗り方についてのお願い

加須西中では生徒の自転車の乗り方について随時指導をしていますが、登下校中の一時不停止や並列進行などで地域の方から連絡をいただくことがあります。

交通ルールを守らせることが、お子さんを交通事故から守る最適な方法です。御家庭でも交通ルールについてぜひ話題にしてください。

